

体温計

vol. 131
2018 2月号

皆さまからお声をいただいています

提案箱にご回答します

提案箱にご回答します

提案箱へのご回答を
西館1Fロビーに
掲示しています

01 受付番号の表示について

受付番号を表示するモニターには、何種類もある中から受付番号が表示されているため、なかなか表示されず、利用者は皆不便に感じています。受付番号の表示回数を増やすか、全体の表示速度を上げるか、対応をお願いしたいです。



このたびは大変ご不便をお掛けし申し訳ございません。ご意見を受けまして、受付番号の表示時間を長くし、その他表示時間の見直しをさせていただきました。(医事課)

02 病室の照明について

病室の手元照明が明るすぎる。また、対面する人の照明が目に入るため、ルーバーなどを設けて、他人の目に入らないようにしてほしい。また、スイッチの位置も手元にしてほしい。

貴重なご意見ありがとうございました。現在、院内照明のLED化に取り組んでおり、このような機会を捉え、照明器具の選定や照明計画を行ってまいります。(施設課)

提案箱は
西館1Fロビーほか
院内10か所に設置
しています

03 毎日清拭をしてほしい

入浴、シャワーができない時は毎日清拭をしてほしいです。

ご提案ありがとうございます。身体の保清は、とても大事です。シャワーができない時は、看護師にご相談ください。快適な入院生活となりますよう、支援させていただきます。(看護科)

04 不安なく過ごせました



心臓血管外科に手術でお世話になりました。先生や手術、治療に関わってくださった方々、ありがとうございました。わかりやすい病気の説明や、明るく接して下さって、入院期間中不安なく過ごすことができました。病院の皆様ありがとうございました。

提案箱

05 出産でお世話になりました

9月に出産でお世話になりました。どのスタッフの方も親切で話しやすく、快適に入院生活を過ごせました。ありがとうございました。また機会がありましたらお世話になりたいと思います。



06 毎月楽しみにしています

数ヶ月前に徐々に病院広報の体温計を拝見しました。以前のものより明るく、読みやすくなっているように思いました。かわいいイラストも多く楽しく読ませてもらっています。毎月楽しみにしています。

ありがとうございます！



当院では、広く皆さまからのお声を頂戴するために、院内各所に「提案箱」を設置しています。多くの皆さまから、さまざまなご意見やご要望をいただいています。皆さまからの貴重なお言葉を大切に、今後も皆さまからのご期待にお応えできるよう、向上に努めてまいりますので、今後ともお気づきのことがございましたらお聞かせください。

TOPICS

- 今月のおはなし「呼吸器内科」〈呼吸器疾患の動向と当院呼吸器内科の特徴〉
- 部門紹介「薬剤科」をご紹介します
- 看護科だより「連携チームでの対応をめざして」
- 外来担当医・特殊外来一覧表 ● 病院からのお知らせ





呼吸器疾患の動向と 当院呼吸器内科の特徴



副院長兼 呼吸器内科主任科長 山田 孝

呼呼吸器内科は肺に関連する疾患を広く診療しています。肺炎、肺がん、気管支喘息などが皆さんに馴染みのある病名と思います。やや馴染みのない病気として、間質性肺炎などがあります。

呼吸器内科での特筆すべき医療の進歩として、気管支喘息の治療があります。気管支喘息とは人類は長い付き合いを持っています。古代文明の文書に気管支喘息と思われる記録が残っており、いつの時代もこの疾患があり、発作で苦しんでいる人たちがいることがわかっています。

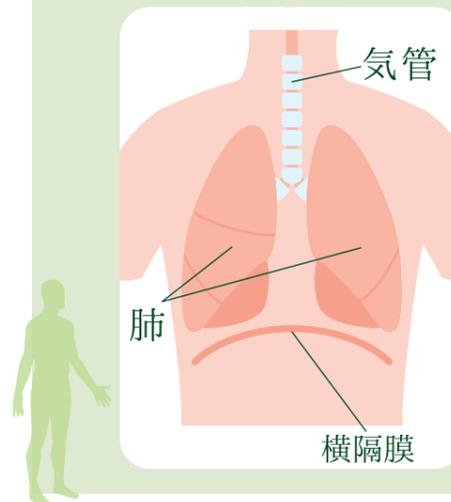
およそ20年前から吸入ステロイド薬が普及し、喘息発作はほとんどの人で改善しました。疾患自体は治らないのですが、発作の苦し

から多くの方が解放されました。これは人類の歴史の中で初めてのことです。人類の英知と言ってよいと思います。そして現在は、発症予防の研究が進められています。

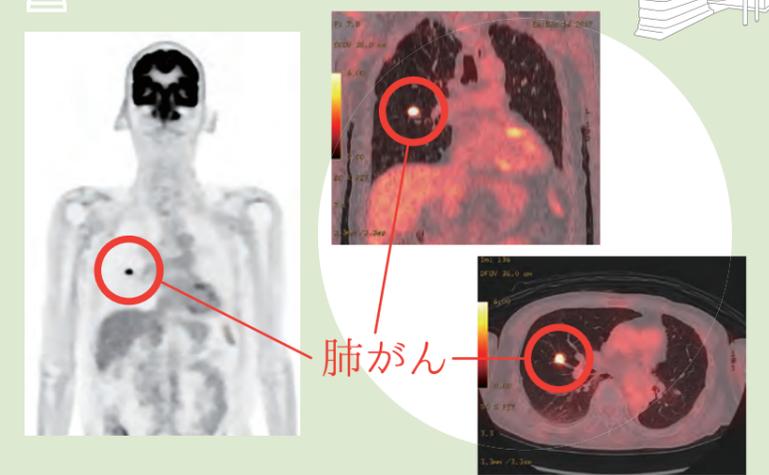
肺がんは治療の進歩が著しいです。薬剤の効果が現れやすい性質の人を見出すことができるようになってきました。適切な薬剤が選択できますと、たとえ進行した状態であっても2年くらいは効果が期待され、現在はそれ以上の効果を求めています。



肺と気管



PET/CT 画像



医療全般でのことですが、どんな病気であるかを最初にはっきりさせる必要があります。それは病気の名前を決める、つまり診断することです。簡単な方法でどんな病気かわかれば、これに越したことはありません。

今の日本では、がんの患者さんはたくさんいらっしゃいます。がんの診断をしっかり付けるには、がん細胞を見出すことが基本です。このためには、細胞や組織をその方から採取させていただくことが避けられません。肺からの細胞や組織の採取は簡単にはできません。具体的には、気管支鏡検査や、胸水(きょうすい)が溜まっている場合は胸腔穿刺(きょうくうせんし)や胸腔鏡(きょうくうきょう)を用いた検査をお願いします。診断はその後の治療のためにあります。このため診断にかかる時間はできるだけ短いほうがよいことになります。当科では、気管支鏡、胸腔鏡の検査は基本週に4日は実施できるようにしています。

気管支鏡検査は、呼吸器内科の医師が主に実施しています。さらに当院では、診断目的に胸腔鏡検査も呼吸器内科医師が行っています。このため検査実施の判断から検査施行までが迅速に行われています。細胞や組織の検査は、病理診断科で行われます。検査実施から数日で結果が判明します。

肺がんの場合、病気の診断と病気の進展具合の両方を明らかにすることで、大きな治療方針が決まります。さらに最終的な治療方法は、患者さんの意向をうかがって決まっています。

この時全身を調べる方法として、PET(ペット)検査が重要な役割を果たします。平成29年から当院にもPETが導入されたことで、治療方針決定までの期間がさらに短縮されています。

頻度は少ないのですが、肺(気管支)から出血してしまう場合があります。これを喀血(かっけつ)といいます。少量の血液が、単回あるいは数回出るくらいでおさまってしまえば良いのですが、安静や止血剤での対応・治療でもおさまらない場合や、出血量が多い場合もあります。このような時は、血管からの治療が有効です。気管支動脈という血管から出血していることが多く、この血管を小さなコイルで塞いであげると、出血が止まってきます。この治療を気管支動脈塞栓術といいます。当院では呼吸器内科医師が自らこの治療を行っている、全国的に数少ない施設です。自ら行っているため、治療の判断や治療開始までの時間が短くて済んでいます。

今後も患者さんのメリットと医療の質を意識して、診療内容の充実を継続していきます。



薬剤科

今月は『薬剤科』の仕事をご紹介します。



薬の専門家として薬の安全と安心をお届けします



薬剤科 薬剤部長
金森 久美子

薬剤師の役割は、薬の適正かつ安全な使用を担保していくことです。現在は、確かな効果のある反面、リスクの大きい薬も多く存在します。患者さんの状態にあってはいるか、飲み方は適切か、効果や副作用はどうかなど薬剤師の視点から確認していくと共に、薬について正しく理解していただけるよう、患者さんやご家族に説明しています。また、医療スタッフにも必要な薬の情報を適時提供しています。医療は常に進歩し、新しい作用機序の薬も次々と開発されています。薬の専門家として薬の安全と安心をお届けできるよう、科員一同日々研鑽を重ねてまいります。



手術室



患者さんに直接お会いすることはありませんが、手術室で使用される薬剤の保管・管理を行っています。

DI(ドラッグインフォメーション)室



薬の安全性・有効性に関する最新の情報を収集し、必要な情報は院内全体にお知らせします。また、院内の薬に関する質問の多くをDI室で回答しています。薬剤科の緑の下の力持ちです。

臨床試験



「くすりの候補」を「薬」にするために効果と安全性を調べる「治験」と、病気の原因の解明や予防、新しい治療法の開発などを目的に行う「臨床研究」を管理・支援しています。また、治験や臨床研究に協力していただいている患者さんの相談窓口にもなっています。



調剤室・製剤室



処方せんに従って、錠剤・粉薬や外用薬(貼り薬、うがい薬など)等を調剤する所です。1000品目以上の薬を取り扱っています。製剤室では、製薬会社で製造されていない、治療に必要な製剤や手術・処置に必要な製剤等を作り、供給しています。

注射室



注射処方せんに従って、入院・外来患者さんの注射薬を取りそろえています。約700品目を取り扱っています。高価な薬がたくさんあるため、在庫管理を適正に行うのも重要な仕事です。

病棟



化学療法



入院・外来共にすべての注射抗がん剤を混合調製しています。患者さんにお薬の説明を行い、副作用の状況を確認し、安心して化学療法を受けていただくために日々業務に励んでいます。



入院中の薬物療法を安心して受けていただくために、飲み薬や注射薬の事等、患者さんやご家族へ説明します。また、説明にうかがうのが困難な患者さんに関しても、カルテ上で安心安全な薬物療法が行われているかを確認しています。



入退院支援室

入院前に、手術・処置等で一時的にやめなければならないお薬がないかなどのチェックや、常用薬の事前把握をすることで、安全かつスムーズな入院生活を支援しています。



連携チームでの対応をめざして

看護科だより

西 8 階病棟

西 8 階病棟は、耳鼻咽喉科や脳神経外科を主体とする混合病棟です。

手術や治療で嚥下機能や発声機能を使うことができない、あるいは、脳卒中など病気の発症を境に、歩行機能・嚥下機能・言語機能などが低下するなど、今まで問題なくできていたことができない状態に陥っている患者さんが多く入院しています。患者さんもお家族も非常につらい思いを感じていると思います。そのような患者さんの病状を、悪化することがないように病気を安定させ、元の生活に少しでも近づけられるように、日々ケアをしています。

たとえば、脳卒中の急性期は、脳のダメージ範囲が広がらないように、血圧の管理や点滴治療を行います。看護師は、医師と阿吽の呼吸でスピーディーな対応を求められます。患者さんの小さな変化を見落とさず、変化がある場合には医師へ報告をし、治療へとつなげます。

また近年は、脳卒中の急性期でも、筋肉が硬くならないようリハビリを早期から行うことが推奨されています。そのため、リハビリテーション科スタッフも病室でリハビリをすすめています。病室内でのベッドサイドのリハビリから始めて、食事やトイレの行動を取り入れながら拡大させ、本格的なリハビリへとつなげています。多くのスタッフが、患者さんが早く回復できるよう、連携しながら関わっています。わずかな変化でも患者さんの回復を実感した時の喜びはとて大きく、スタッフ皆で喜びを共有しています。

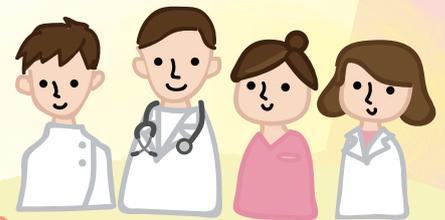
患者さんやご家族が元の生活を目指して進んでいけるよう、医師、看護師、さまざまな部門スタッフと、チーム一丸となって対応させていただきたいと思っています。



患者さんおひとりおひとりについて、チーム全体で情報を共有します



看護師、リハビリスタッフによるカンファレンス



- 外来診療時の受付時間 8:30～11:30 (一部、受付曜日や時間が異なる診療科があります)
- 担当医は、都合により変更することがあります(土・日曜日・祭日は休診です)

急病時の連絡先

- 救急外来 054-253-3125
- 心臓救急 054-252-4399

24時間受け付けています

人間ドック

予約制、当日結果説明、昼食付

脳ドック

予約制(予約受付 月～金 10:30～16:00)
毎週火曜日実施、当日結果説明

健康診断

予約制(予約受付 月～金 10:30～16:00)

レディース検診

予約制(予約受付 月～金 10:30～16:00)

予約と受付は、
市民健診センターへどうぞ

TEL : 054-253-3125
(内線 5350)

FAX : 054-253-3237

